



八中だより



令和6年9月5日 9月号
調布市立第八中学校
校長 馬場 誠

HP : <http://www.chofu-schools.jp/chofu8/>

「自分らしさ」を認め合える2学期にしましょう

校長 馬場 誠

夏休みを終えて、いよいよ2学期を迎えました。夏休みは充実していましたか。学校ではできないようなこともしっかり体験して、身も心も大きく成長した人がいるかもしれませんね。2学期以降の生活に夏休みに吸収したものを生かしてほしいと思います。

ところで、夏休み中の三者面談では、担任の先生からi-checkの結果をお渡ししました。そこには生活面や学習面で達成できていること、もっと頑張ったほうがいいことなどが示されていたと思います。統計に基づいた客観的な結果なので、2学期の目標づくりに積極的に生かし、自分自身のハードルを越えてほしいと願っています。

i-checkは一人一人の課題を表すとともに、クラスや学年、学校全体の課題も浮き彫りにしています。クラスによりさまざまな傾向がありますので、今後、担任の先生を中心にクラス集団としての課題を克服してほしいと思います。学期末には、さらに絆の深いクラスになって、毎日の学校生活がより充実するといいですね。

一方で、学校全体の傾向も見えてきました。一番目を引くのは「対人ストレス」という項目です。実は、八中生の中には、人付き合いをする上で不安を感じる人の割合が少し多い傾向にあります。「仲間外れになるのがこわくて、友だちの意見に合わせてたりすることがある」「グループを作るとき一人ぼっちになるかもしれないと不安になる」などの項目に「そう感じる」と答える人が少なくなかったという結果でした。

しかし、普段から人を信じられないような孤独な人ばかりかというところ、そうでもないように思います。7月の学校評価アンケートでは、「学校では気軽に話ができる友達がいる」という項目に1年97.1% 2年94.2% 3年91.9%の人が肯定的な回答をしています。また、「クラスでは安心して自分の意見が言え、自分らしさが出せる」には、1年80.2% 2年82.6% 3年79.2%と8割の人たちが、普段からのびのびと意見を言うことができていると答えています。

にもかかわらず不安を感じてしまうのは、第一に性格に起因している部分があるのではないかと思います。優しい生徒が多いので、つい人に遠慮して意見を合わせてみたり、自我を押し出すより一歩下がって他の人を立ててみたりすることが多いのかもしれません。第二に社会は多様な他者の集まりであるという認識がまだ十分に育っていないということに原因があるのではないかと考えます。人と同じでないで恥ずかしい、人と違うことはするべきではないという気持ちが奥底に眠っている、したがって、自分を押し殺すことが癖になってしまっているのかもしれません。しかし、人はみんな違っていいものだし、だからこそみんなで力を出し合い、この複雑な現実に向き合えるといえます。

本校では「心理的安全性の高い学校」を目指しています。心理的安全性とは誰もが否定されることなく自分らしさを発揮できる環境のことです。「対人ストレス」の不安を少しでも減らせるよう、この2学期はより一層、互いを認め合い、尊重し合える関係づくりを、学校全体で取り組んでいきたいと思っています。